

ふれあい

学校教育目標

「やさしく かしく たくましく

自分のよさを生かして

未来を創ろうとするしゃちっ子」の育成

令和6年11月8日 校長 重松 景二

愛でいっぱい、学びでいっぱい、遊びでいっぱいの学校にする

アップデートしよう（未来を創る子どもたちのために）

涼しくというよりも おしろ寒く…

日中と朝晩の気温差がこんなに大きいと体調管理も難しいものです。合服にしようか、冬服にしようかと迷う朝もありそうです。子どもたちは、まだまだ半そでの子もいたり、もう手袋をしている子もいたりそれぞれです。学習もそうですが、個に応じることの大切さが服装にも表れています。



本日、地域の方よりうれしい電話連絡がありました。内容は「つい先ほど、県庁前のコンビニ駐車場から出ようとしたときに、歩道を通学する附属小児童が立ち止まってくれたので、車の前を通るように促した。しばらくは、通ろうとしなかったが、何度か促すと、その児童は用心して通過し、その後振り向いてお辞儀をしてくれた。歩道上は歩行者が優先であるが、安全に気を付けて登校しようとする姿や礼儀正しさがとても気持ちよく、朝から清々しい気分になれたので連絡した」というものでした。うれしいですね。この子もですが、他の場所でも同じようにしている子どもたちがたくさんいると思います。日頃のご家庭の指導と学校での指導がうまく伝わっていると感じました。当たり前のことと言われるかもしれませんが、当たり前のことを自然にできることは、たいへん素晴らしいことです。とてもうれしいお知らせでした。

交流する、連携する 幼稚園とも特別支援学校とも中学校とも…



先日は附属幼稚園の園児が体験入学に訪れました。運動場で体育を一緒にしたり、図工でヤクルト容器を使って笛を作ったりしました。給食を食べている様子も見学したので、小学校入学への期待を膨らませたことでしょう。3年生は特別支援学校を訪問し、一緒に箱積みや輪投げなどをして、交流しました。また、他の学級では、一緒にダンスを踊ったり、プレゼント交換をしたりして、交流しました。エコクリーン委員会は、中学生の環境づくり部と小中合同地域清掃活動を行いました。県立美術館・博物館の周りをゴミを拾いながら歩きました。なかなかゴミは落ちておらず、袋いっぱいにはなりませんでした。おしゃべりしながら交流を深めていました。このように四附属での交流活動や連携教育を通して、附属学校が一体となり、子どもたちの学びや育ちを支えていきます。それによって、子どもたちが大きく成長することを期待しています。



環境問題は喫緊の課題です 未来は子どもたちが…

佐賀県産業資源循環協会の青年部、谷田様を中心に十数名のゲストティーチャーを招いて、4年生が環境問題について学習しました。まずは、3Rのこと、分別の必要性などの話を聞きました。次の時間は、分別収集され圧縮されたゴミを実際に見たり、タイヤなどの大きなゴミを載せるトラックの実際の働きを見たり、ゴミ収集車の仕組みを見たりしました。最後の時間は一人一人のゴミに対する行動について約束の木を作りました。環境への意識を高める学習でした。ゴミに対する見方と行動が変わることを期待します。

